

国際ロータリー第 2790 地区 第 11 分区

2012—2013 年度
ロータリー情報研究会 報告書

開催日：2012. 11. 6

ウィシュトンホテル・ユーカリ



第 11 分区ガバナー補佐

神谷 昭信

目 次

1. プログラム
2. ガバナー補佐挨拶 ガバナー補佐 神 谷 昭 信
3. ホストクラブ会長挨拶 八千代中央ロータリークラブ 小 池 博 康
4. 地区職業奉仕委員長挨拶 千葉西ロータリークラブ 海 竇 勘 一
5. 意見交流 議事録
6. ガバナー補佐謝辞 ガバナー補佐 神 谷 昭 信

ロータリー情報研究会

テーマ「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」

日 時：平成 24 年 11 月 6 日（火）午後 2 時より

会 場：ウィシュトンホテル・ユーカリ

参加者：7クラブ 117名

プログラム

13:30	登録開始	司会：分区幹事	土 屋 信 之
14:00	開 会		
	点 鐘	ガバナー補佐	神 谷 昭 信
	国歌斉唱		
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱		
14:05	ガバナー補佐挨拶	ガバナー補佐	神 谷 昭 信
14:15	ホストクラブ会長挨拶	八千代中央ロータリークラブ	小 池 博 康
14:20	地区職業奉仕委員長挨拶	千葉西ロータリークラブ	海 寶 勘 一
14:30	テーブルごとに分かれて双方向意見交流		
	・テーマ「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」		
	・テーブルマスターは各クラブ委員長と地区委員5名ですので、できるだけマスターの数とテーブル数が一致するように、着席方のご配慮をしてください。		
	・テーブルの着席は、できるだけ違うクラブメンバーと同席するように工夫してください。		
15:55	休 憩		
16:05	テーブルごとに双方向意見発表交流		
	・テーブルごとの発表に加えて、他テーブルとの双方向の意見交流		
16:55	ガバナー補佐謝辞	ガバナー補佐	神 谷 昭 信
17:00	閉 会	ホストクラブ幹事八千代中央ロータリークラブ	佐 藤 政 敏

ガバナー補佐挨拶

第 11 分区ガバナー補佐 神谷 昭信

皆様こんにちは。今年度、11 分区ガバナー補佐を務めさせて頂いております、八千代中央 R.C の神谷でございます。

本日は、11 分区のロータリー情報研究会にお忙しい中、約 120 名の方々にお集まりいただきました。皆様の御協力に感謝を申し上げます。

このロータリー情報研究会は、ガバナーの主催を代理主催という考えで私が務めさせて頂きたく思います。ですので、この会はガバナーの御要望を反映する会にしたいと思っております。そして地区の職業奉仕委員の方々には、アシスタントとしてこの会が、スムーズに運営されますようお願いをしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今日は、パストガバナーで地区の研修委員をなされておられます崎山さんがご参加されております。崎山さんの前でお話をするのは少々気が引けますが、舌足らずのところがありましたらこれも勉強と思ってロータリーの友情で見守っていただければと思います。

今年度、田中作次 RI 会長は、職業奉仕に関しまして「事業を成功させるには顧客の満足を追求する以外にはないという結論に達しました。事業が成功すれば自分も幸せになれる。それは事業が成功しているからでなく、人を幸せにしてあげることが出来たという認識があるからです。」として自分の今日あるのは、職業奉仕実践のお陰であると述べておられます。これを踏まえて得居ガバナーは地区の運営方針を 1 番に職業奉仕の更なる推進を強力に図るよう要望されております。

この職業奉仕はロータリーの看板と言われておまして、他の団体にはない奉仕分野であり、いつでも誰でも出来るもので、いわばロータリーの生活の規範をなすものでございます。この目的を達成する為に最も必要なことは「職業奉仕とはどんな行為か」を理論でなく具体的に知らせることであるのですが、これが個人の行為である上に、日本人特有の陰徳主義（良いことは隠れてやりなさい）ということも手伝って具体的に例証するのが困難でして、これが職業奉仕を「わからない」「難しい」というものにしていないのでしょうか。

先だって、私のホームクラブの八千代中央 R.C の皆さんに、そして、先日の 11 分区の会長幹事会で会長、幹事の皆さんにロータリークラブに入会した切っ掛けをお尋ね致しました。それぞれの人の答えは「仕事の関係の人に誘われてお断り出来なかった」「友人に食事をごちそうになった」「お酒を一杯飲まされた」「だまされた」そのようなことでございました。田中作次 RI 会長の入会の切っ掛けは、クラブ会長に勧められて入会をしたとおっしゃっております。続いて「最初の 2 年間は毎週例会に出席し、昼食をとり卓話を聞くだけでした。会費を払い、ロータリー財団にも寄付をしていましたが、奉仕活動には参加をしていませんでした。ですからロータリーの奉仕というものがどういうものかも知らなかったのです。そんな状況が一変したのが、例会で職業奉仕の卓話を聞いた時でした。その事が切っ掛けで職業奉仕を少しずつ理解し、今日の私があるのです。」とおっしゃっております。

私はロータリーに入会した切っ掛けは RI 会長も我々もそんなに違わないのではないかと

と思っております。そして職業奉仕を理解する切っ掛けをいつ、つかむかということではないのでしょうか。

ロータリーに入会して5年未満の会員が今日は多数出席されております。先輩会員にロータリーの事を聞いても「そのうち解るよ」ということでは、相当時間がかかるのではないのでしょうか。そのうち面白くなって退会ということになりかねません。そこで結論を申しますとロータリーは実践的倫理運動であります。このことを理解しなければ職業奉仕が理解出来ないと言われております。それではなぜロータリーが倫理運動であるかと申しますとクラブ定款の第4条に綱領こうりょうが書いてありまして、これが倫理そのものであるということでございます。そして倫理を考える時、人間の行動パターンには大きく分けて「打算の世界」「愛情の世界」に分けることが出来ると言われております。職業奉仕を考えた時、職業は「打算の世界」であり奉仕は「愛情の世界」でありまして、実は職業奉仕というのは、この愛情の世界の考え方をもちて打算の世界をコントロールしてゆこうという考えであります。「打算の世界」を「利己」「愛情の世界」を「利他」と解釈すれば、得居ガバナひょうぼうーが標榜ひょうぼうされております「利己と利他の調和を」と合致するものと思われま

皆様には、このように各テーブルに分かれていただきまして「職業奉仕に生きること・話し合い・語り合おう」のテーマをもって、自分の職業を通してどのような奉仕活動をされているのかを話していただき、それを聞くことによって職業奉仕をより深く理解する切っ掛けになりますことを御期待申し上げまして挨拶と致します。

ホストクラブ会長挨拶

八千代中央ロータリークラブ 会長 小池康博

ただ今ご紹介いただきました、八千代中央ロータリークラブの小池です。

11 分区の皆様、雨の中、情報研究会にお集まりいただき本当にご苦労様です。

私の職業に対する考え方は、スポーツ（野球）を通じての守りと攻撃のいろんな場面を学んだことが基本になっています。

まず、守りはそれぞれのポジションでの役割、色々な想定の中の連携、対策等を捕手からのバッターに対しての球種、コースにより意思疎通を取り合い最善の対策を立てて守り抜こうと頑張ります。また、攻撃では監督の意向を汲み取るようにしてボックスに立ちますが失敗もあります。しかしそれは次打者に情報を提供して取り返すことを考えて全員で難敵を打破する様心掛けています。つまり、私はトップの考える目的を全員が理解をして行動することが大切だと考えた試合でも負ける事も有るのですが、努力をして負けたなら次が有るとの考えで進んで参りました。そして、終わりになりますが、出会いを大切に、その中で触れ合いをすることにより、本日ここにお集まりの皆様とより親交が深まる事をお願いして、挨拶に代えさせていただきます。有難うございます。

地区職業奉仕委員長挨拶

地区職業奉仕委員会 委員長 海寶勘一(千葉西 RC)

本日は第11分区のロータリー情報研究会を開催することが出来、主催された神谷ガバナー補佐さんには多くのご指導を賜り、土屋分区幹事さんやホストクラブの八千代中央 RC 会長の小池さん幹事の佐藤さんには、会場設定等準備に多大なご支援とご尽力を頂き、地区委員会として心からの感謝をしております、誠にありがとうございました。

今年度得居ガバナーは、年度活動運営の要望事項として職業奉仕の推進を掲げてくれました。

まずは、ロータリアンとして遵守すべき綱領を良く理解し、その奉仕の理想を基本とさせて、つねに相手方を思い遣る、優しく豊かな心を持ち、ご自身の事業繁栄に邁進することと述べております。

更には、綱領の理解と推進が職業奉仕の理解と推進でもあると結論付けてくれ、ガバナーの年度要望事項として職業奉仕の一層の推進を提示されました。

その手法としては、クラブ会員の自主的な研修によるクラブ強化を提案され、このことを踏まえて私達地区職業奉仕委員会は、クラブメンバーの皆様にお互いに胸襟を開いて、自由闊達な双方向意見交流をする場を考えてみました。

我々、ロータリアンは定款第8条の職業分類によって選ばれた自信と誇りある職業人であり、自らの職業を素直な立場で話し合い語り合える認識を深めることを活動方針としました。

得居ガバナーも一緒に考えて頂いたテーマですが、職業奉仕に生きること 話し合い語り合おうと目標が決まりました。 そのためには、私達地区職業奉仕委員会の立場は、地区内第85番目のクラブ委員会仲間であると位置づけて、まずはクラブ職業奉仕委員長さんと話し合い語り合う場を設けることが最善であるとの結論でした。

その考え方としては、すでに委員長さんが経験された隣接2分区ごと計7回のクラブ委員長セミナーを開催して、様々な他クラブメンバーとの職業倫理や人間性を磨くことを語り合っていました。

今日のロータリー情報研究会のテーブルマスターとして準備のためのヒントを学んで頂き、双方向意見交流をクラブでも実践して頂くためでもあります。

ロータリー情報研究会と言えば、経験的には博識ある立派な講演者を迎えた卓話等で、賢人の理念や歴史観の講話を聴き入ることが数多くありました。

このことは有意義な学びの手法ではありますが、職業人として活躍されるご自身の考え方を自ら伝え語り話し合うことは、一層尊敬される模範的な職業人となりえる最善の手段でもあると思います。何よりも大きな筋道として、職業人同士が理解と価値を分かち合い切磋琢磨できる絶好の機会になると考えています。

価値ある職業人を代表するロータリアンであればこそ、今一度綱領を読み解き理解する必要があります。 その2項に書かれている文章には、事業及び専門職務の道徳的水準を高め あらゆる有能な職業は尊重されるべきとの認識を深めロータリアン各自が事業を通して社会に奉仕をする為に、その事業を品位有らしめることを端的に謳っております。

第2項これこそが職業奉仕の根本と素直に受け止めれば、益々ロータリー活動が有益で誇り高く感じ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることを体験できるでしょう。

皆様の中には、職業奉仕の理念や知識と歴史を学ばずに、また双方向意見交流の結論も求めない 本日のロータリー情報研究会に対して、なにかしらのご不満をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、職業奉仕の理念や歴史観を深く掘り下げて学び、また研究することだけがロータリアンの研修スタイルではないことも是非とも気づいてほしいのです。

綱領の第2項に書かれています様に、品位をもって事業に専念する姿勢からは、尊敬と信頼を世の中の人々から受け 日々模範的な職業人としての信用を大きく得ることに、私達ロータリアンの使命があることを自覚する必要がある気がします。

更には四つのテストを活用させ、日々研鑽し向上するのであれば、毎例会時に自らが示している 何気ない自身の言葉ずかいや仕草こそが大切になり、立派な職業人としての姿勢になることでしょう。

例会に出席することにより、職業人同士の体験談や知識や知恵等を耳にでき、職業倫理を互いに学びあう立ち居振る舞いや言葉遣いは尊いものだと思います。

日々一心に職業に精進するなかで、一生懸命に生きる職業人としてのしぐさこそが自分自身を素直に表現させますし、さりげなく感化し合えることを信じております。

皆様と話し合い語り合う場から、少しでも自己研鑽と向上心の価値が高まり、徳性と品格あるロータリアンに成長されることを期待しています。

地区協議会で提供しました4つの挿話ですが、時間経過とともに中に書かれている人間性の価値観の評価が高まりつつあります。

クラブに於いて職業人としての自己啓発や、向上心に結び付けて頂けたら嬉しい限りです。

世の為人の為をせんと先に思い遣り、自負心をもって事業繁栄に結び付ける職業人として、職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おうの双方向意見交流を、限られた時間の中ですが、和やかに大いに楽しんでください。

また是非ともクラブ委員長さんが率先をして、各クラブの中でも広めて活用して頂きたいものです。

- ・胸襟を開いて自由にディスカッションに参加しましょう
- ・先ずは人様の発言を注意深く聴き入れましょう
- ・ご自身の職業奉仕経験を自由に話し合い語り合しましょう

意見交換 議事録

「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」を主なテーマとし、1テーブル7・8名が15テーブルに別れ、自己紹介とテーブルリーダーから意見交流についての説明があり、その後、双方向意見交流を行った。

また、最後にテーブルリーダーよりテーブルごとに発表が行われた。

①職業奉仕について

- ・ ロータリーを継続していくには、顧客満足と社員の満足度を高めていく。そして、次世代に残していく。
- ・ 奉仕は自分自身に余裕があって、はじめてできること。
- ・ 企業が存続していくこと、雇用が存続されること。それが職業奉仕である。
- ・ 自分の職業を一生懸命することが職業奉仕である。
- ・ 適正な利益を確保して、従業員にも適正な給料を支払い、更に利益を社会に還元することが職業奉仕である。
- ・ 社員の生活を守るために給料を確保する。
- ・ 売上、利益を出して納税する。
- ・ 企業または個人が利益を出し、その一部分をロータリー財団、米山等に寄付する。そのために一生懸命仕事をし、会社に利益を求めなければならない。会社に利益を与えなければ職業奉仕とはいえない。
- ・ 人に必要とされる職業だと思い、常に奉仕する心を持ち、一つ一つの仕事に対し感謝の気持ちを持ち、信頼と絆を何より大切にし、お客様の満足と心と安らぎこそが最良の奉仕である。
- ・ 倫理観を持って職業の質を高め、道徳を高め、信用を高めることが大切。
- ・ 専門的な職業人から情報を入手することで、ロータリー活動を通じて社会貢献につながる。
- ・ 誠実に商売をすることによってお客様の利益を引き出し、誠実に相談にのることによりお客様を含め社会に貢献できる。
- ・ 職業に誇りを持ち、正直に且つ品位ある方法で職業を実践していくことが必要。
- ・ 職業を通して社会に貢献する。顧客第一主義でお客様に喜んでもらうことが大切。
- ・ 株主や力を貸してくれる人に対する義務を果たす事によって社会に会社の存在を認めいただく事が職業奉仕に繋がる
- ・ いたずらに営業規模の拡大をもとめず、相手の信用を得られる範囲での適正規模の経営に努めることで周囲の信用を得、周囲からの信用につながる。この過程が職業奉仕の考えと合致する。
- ・ 己の仕事を確実・健全に行って適正な利益を確保した上で、納税さらにその余剰部分を寄付行為やボランティアにつなげることが、職業奉仕の基本である。
- ・ 健全な企業経営を行うことで、雇用等の地域社会の発展に貢献し、さらにはロータリーの職業奉仕・社会奉仕につながる。
- ・ 顧客を差別することなく、顧客毎にその必要としているであろう、商品・サービスあ

るいは情報を提供することで共に利益を共有し共に発展し、さらに社会貢献につなげていくことが職業奉仕の精神である。

- ・ 顧客のさまざまな希望要求に常に即時に対することで、顧客の信用を得ることができ、会社の発展につながってきている。これが職業奉仕の精神ではないか。
- ・ それぞれの職業が成立すると言うことはその職業が社会に必要とされていることであり、その職業を通して得た利益を寄付等の形で社会に還元することが職業奉仕の精神である。
- ・ 中学2年生を職場体験で受け入れた。電気工事業ということもあって怖いこともあったが、非常に面白く、将来は大学で電気の研究をしたいとの手紙が来た。このような運動は単独の会社やロータリークラブだけではなく、近隣のロータリークラブで力を合わせて運動していったらどうだろうか。
- ・ 人間は社会の中に属しているから生きて行ける。職業を通じて社会の接点を持ち、社員は会社を通じて社会に接点を持っている。人と人との結び付き、お互いに支えあうことが大事である。
- ・ 何十年ロータリーにいても、職業奉仕の本質は追及し続けていく大きなテーマである。

【具体的な職業奉仕】

- ・ 無料の法律相談の開催。(低所得者からの相談が多くなってきている)
- ・ 地域密着で、中学生等の職場体験を受け入れている。
- ・ 民生委員等として、地域でボランティア活動をしている。
- ・ 専門性を高めるため、取引先の専門知識の教育を月に一度出張し教育している。
- ・ 毎年、職業奉仕委員会が企画し、事業所見学を行っている。異業種から学ぶことが多い。
- ・ 会員卓話として「職業分類談話」を行っている。
- ・ 会社の優秀な社員、従業員をRCに呼んで表彰をする。
- ・ 卓話者が急にキャンセルになった場合、その時間を利用して、テーブル毎に1つのテーマ(例えば職業奉仕について等)について話し合う様にしている。この様な時に特に新人には良く話してもらう様に心掛けている。

【仕事とRCとの関わり】

- ・ RCに入っていることが仕事に繋げる事が優先されてはならないと思うが会員同士の関わりの中で自然と仕事に繋がっていることは実際ある。
- ・ たくさん稼いでたくさんRCに寄付をする事が良いと言っていた方がいたがそれだけではどうかと思う。
- ・ RCに入ったきっかけは、地元で密着し消防団や青年団など色々な事に参加し、現状、人が足りないので雇用の促進が図れればよいと思った。

②社員教育について

- ・ 朝礼で、倫理の「職場の教養」の本を毎日読んでいる。
- ・ 朝礼で、会社の「道徳マニュアル」の本を毎日読んでいる。

- ・ 2～3 ヶ月に1度しっかりと研修を行う。
- ・ 朝礼を行い、情報を観察し各機関に報告をする。
- ・ 法令を順守する。
- ・ 現場と事務方の連携をしっかりとする。
- ・ 仕事の内容、記録をしっかりと書面に残す。
- ・ 相手の立場に立ち仕事をする。

③四つのテストについて

- ・ 四つのテストは大事なこと。常に心に照らし合わせること。
- ・ 会社経営の中で実践していくことが大切である。
- ・ 「みんなに公平か」を意識し自分自身、社員、関係業者に対して公平かどうか考えて仕事をするようにしている。
- ・ 四つのテストを事務所に掲げている。

【「四つのテスト」唱和のやり方について】

- ・ 1回／月当日の参加者の中からランダムに担当者を決める。
- ・ 1回／月会長が担当する。
- ・ 1回／月職業奉仕委員長が担当する。
- ・ 毎回唱和している。
- ・ 四つのテストを毎回英語で唱和していると聞いた事がある。

④印象に残った話として（個人の意見）

- ・ 職業分類がホテル業の佐藤さんは、14年前、バブル崩壊の後に着任しましたが、不況の時でも日本人はお金を貯蓄しているとの思いを持ち、利用動機を設定し、「温かい心」、[親切な心]、「おもてなしの心」で不況の中でもやってこられたと話されました。昨年の震災の影響が出ていますが、“ウィシュトン・マインド”で経営しているとのことでした。
- ・ 情報家電販売（ドコモショップ）の布施さんは、自分の会社そのものに誇りを持ち、自己理念として、「3・3・3・1」と言う全部足すと10になる数字を心がけて、利益の配分を会社運営に「3」、社員還元「3」、納税に「3」、地域社会還元「1」の割合を考えながら経営しているとのことでした。また、「サービスとはディスカウントすることではなく、安心の心を売ることだ」とも話されました。
- ・ ホークリフト販売をメインにされている小林さんは、学校を出てすぐ独立し、「迷惑をかけない」、「お客を大切に」などをモットーに経営をしているそうです。また、借金をなくす事を目標にして、10年前に達成をされたそうです。小さな会社だが、社員にプレッシャーをかけることをせず、ノルマはなく、残業もさせない。ホークリフトは、顧客の生産ラインに組み込まれているので、職業奉仕にまい進していると話されました。
- ・ 不動産管理をされている君塚さんは、緑を残したいと思っているそうですが、これも奉仕の心だと思います。社会奉仕の方に入るか、職業奉仕の方に入るか、どちらでも

当たると思います。

⑤その他

- ・ 新入会員勧誘時に、よく「ロータリーは偉い」と言われる。寄付すれば良いのか、寄付が第一かというようなことだが、まず、自分の体で手伝い、余っていれば寄付するというのではないか。
- ・ 本人の仕事に繋げることを目的とした入会を促すのではなく、毅然としたものを持ち、倫理観を持って勧誘することが大切。
- ・ 仕事は法令順守で実行することが大切。
- ・ 人との関わりが薄くなってきている中、助け合い精神も薄れ、相手の立場を考えたらず上手いくのではないか。
- ・ 「RCに入会してから、会社の運営や管理に変化がありましたか？」の質問に対し、①4つのテストを朝礼時に全員で唱和する様になった。②朝礼の時に次長以上の社員（8名位）に2～3分間の卓話をしてもらっている。
- ・ 「職業奉仕」という表現が適正かどうか、わかりにくい。
- ・ 「職業奉仕」と他の三大奉仕、特に社会奉仕との垣根がわかりにくい、例えば、医師による休診日におこなう学校健診など、ロータリーの場以外でロータリーの職業奉仕・社会奉仕につながる活動を実施しているケースが多々ある。

⑥まとめとして

- ・ 学問ではなく、自然として会社で仕事をしていく上で楽しく働ける会社での組織づくりや事故の無い会社づくりを社員教育・地域社会で構築していく事が、職業奉仕の原点に戻り、よりよい社会を作れる事につながる。文字にすると難題だが、一人一人が会社・家庭の為に仕事に親身に成って打ち込む事が、職業奉仕の原点である。
- ・ 与えられた仕事を相手の立場に立って一生懸命にやれば自ずと紹介が紹介を呼びセールスなどしなくとも仕事が確保できる。時代の変化に対応する事ができれば仕事の幅が広がる。
- ・ それぞれの発表を聞かせていただき、皆様の底流に、「天職」という言葉が流れているように感じました。ロータリーの精神は日本人の中に昔から入っている。歴史上の人物を調べてみればよくわかると思います。自分の職業を「天職」と認識して職業を全うすることが職業奉仕であるという結論に達しました。
- ・ 会社を離れた日常生活の中でも、会社の中でも、社外でも、結論として職業奉仕とは皆さんからお話を聞いて感じたことは「他人様に今よりも、もう少し優しくなり、今よりも、もう少し力になってあげること」だと思います。

ガバナー補佐謝辞

第11分区ガバナー補佐 神谷 昭信

本日は、長時間にわたりまして、大変お疲れ様でございました。疲れの中には、悪い疲れと心地良い疲れとかがあります。今日の疲れはどちらでしょうか。おそらく皆様には心地良い疲れの方に入れていただけるものと確信をしております。

自分の職業を通しての奉仕の考えをお話すること、そして聞くことによって何かヒントになるものが得られたのではないかと考えております。どうぞこれからの人生に職業にお役に立てていただきたいと思っております。

また、地区職業奉仕委員の方々には、この会のアシストをしていただきスムーズに運営出来ましたこと、感謝を申し上げます。有難うございました。そして今日ご参会の皆様には多数のご参加をいただきまして、誠に有難うございました。

来年2月には11分区のI・Mがございます。今日に増しましてのご協力をお願い申し上げます。この会を終わらせて頂きたいと思っております。

本日はどうも有難うございました。